

広域連携について



正和会
清水 義朋 議員



質問 立川市周辺9市による広域連携推進協議会について、協議会の様子や内容、成果について伺う。

市長 広域連携推進協議会は、立川市及び立川市周辺に位置する9市により構成されており、10月21日には昭島市で9市の市長が一堂に会して意見交換を行う「広域連携サミット2024」を開催。「人口構造の変化に対応する広域連携」をテーマに、今後各

市の人口が中長期的にマイナスに転じるという予測の下、諸課題に対して9市がどのように連携していくべきか議論を行った。本市からは、西多摩地域の医療現場における慢性的な医師不足などを課題として挙げ、各市の地域性等を踏まえた諸課題について議論した。どの課題も一つの自治体だけで対処するには限界があり、9市が連携・協力して進めてい

く必要性を各市長が共通認識した。最終的に、これまで培った連携を一層強化し、誰もが安心して市民生活を送ることができる持続可能な地域社会の実現に向け、スピード感を持って取り組んでいく趣旨の共同文書を取り交わした。人口減少問題に対して明確なビジョンに基づく取り組みを推進できる体制を築けたことは、大きな成果であったと考えている。



▲広域連携サミット2024の様子

子どものメンタルヘルスについて



生活者ネットワーク
三原 智子 議員



質問 子どもや若者にも心の不調や精神疾患についての知識(メンタルヘルスリテラシー)を得る機会が必要と考えるが、市の所見とそれに資する取り組みは。併せて教育委員会の所見と学校の取り組みも伺う。

市長 子どものメンタルヘルスについては、様々な社会的な背景と関連する重要な課題と考え、市の取り組みとして、市民や市職員へのゲー

トキーパー研修のほか、こども家庭センターや児童館等で、悩みや不安を抱える子ども・若者や家族に対する相談体制を整えるなど、支援につなげている。また、ストレスや気持ちの落ち込み度をチェックするシステム「こころの体温計」を市ホームページに掲載するなど、心の健康や病気、相談支援やサービスの情報について周知している。今後も支援体

制の強化に努める。

教育長 心身の健康教育の充実は、極めて重要と認識している。小学校では体育科、中学校では保健体育科の授業で心の発達等を指導しているほか、児童・生徒が不安や悩みを抱え込むことなく身近な信頼できる大人に相談することの大切さを、発達の段階に応じて、あらゆる機会を通じて丁寧に伝えている。



ペットボトルの水平リサイクルの取組について



公明党
川崎 善友 議員



質問 ペットボトルの水平リサイクルについて、令和5年第4回定例会でも質問したが、その後の状況について伺う。

市長 国や東京都も水平リサイクルを推進しており、都内26市のうち9市で実施。これまで市が収集したペットボトルは衣類や食品トレイ等にリサイクルされ、最終的には焼却処理されるなど、資源が循環してい

ない点に課題があった。市では、西多摩地域初の取り組みとして、令和7年4月からサントリーグループと事業協定し、水平リサイクルに転換することにより、持続可能な循環型社会及び脱炭素社会の実現に寄与するものと考えている。

高齢者の補聴器購入費用助成について

質問 高齢者の補聴器購入費用助

成について先行自治体を調査中とのことだが、その後の経過を伺う。

市長 令和7年度からの助成事業実施に向け調整中。対象者は65歳以上の加齢性難聴と認定された方で、財源は都の補助金を活用。チラシ等を作成し、事業の周知に加えて加齢性難聴や補聴器の啓発を行う。今後、補聴器相談医や補聴器専門店と協議を重ね、実施に向け準備を進める。



身寄りのない高齢者への支援について



日本維新の会
西尾 壽々斗 議員



質問 本市が行っている身寄りのない高齢者への支援について伺う。

市長 高齢者が孤立しないよう、令和4年度に地域包括支援センター加美内に高齢者見守りステーションを設置、65歳以上の独り暮らしの方や高齢者世帯を順次訪問するアウトリーチ型の見守り支援を行い、必要に応じて適切な支援が受けられるよう関係機関に引き継いでいる。また、

地域包括支援センターでは、高齢者が住み慣れた地域で安心して生活を送れるよう、専門職が将来に不安や生活上の課題を持つ高齢者に対し、相談支援を実施。地域においては、民生委員等による地域の方々や老人クラブ等の活動等を通じ、在宅生活の継続支援や高齢者が安心して暮らせる地域づくりに取り組んでいただいている。

闇バイト防止への取組について

質問 本市での闇バイト問題への取り組みを伺う。

市長 市ホームページで東京都の特殊詐欺加害防止特設サイトを案内。同ページでは闇バイトの見分け方や相談先を紹介している。また、成人式で特殊詐欺加害防止リーフレットを配布、未成年向けにも注意喚起のチラシを作成し周知している。



多摩川^{いっすい}溢水時の田園地区における垂直避難について



日本共産党
伊藤 広美 議員



質問 田園地区では、風水害時に避難指示が出た場合、坂道も多く福生団地に住む高齢者には過酷な避難となることが想像されるため、垂直避難を認めてほしいという要望がある。葛飾区では、UR都市機構と「水害時における共用部分の一時的な使用に関する基本協定」を締結しているが、本市も同様の協定を結び、垂直避難の導入は可能か、所見を伺う。

市長 垂直避難後に洪水が発生した場合、電気、ガス、水道等のライフラインが使えずに水が引くまで孤立するおそれがある。福生市地域防災計画において、垂直避難は危険が切迫している際に発令する、緊急安全確保発令時のみとしている。風水害は地震などとは違い、気象警報や注意報が発表されてから現象の発生までに時間があり、余裕を持った避

難行動を取っていただきたいと考えていることから、UR都市機構との協定は現在考えていない。

質問 緊急安全確保発令時には、垂直避難も想定しているということか。

総務部長 緊急安全確保発令時は、大変危険が切迫しているため、命を守る行動として垂直避難も想定している。

